

## JASSで「宝満とまと」をPR



宝満とまと出荷組合は、福岡ライフエナジー(株)と共同で、7月29日から8月2日までの5日間、コラボキャンペーンを行いました。

利用者に直売所や農産物をPRし、JASSや直売所にさらに足を運んでもらおうと企画したもの。

期間中、那珂川市のJASS—PORT安徳で500袋を利用者に配りました。トマトを受け取った利用者は「新鮮な農産物を求めて、直売所も利用したいです」と笑顔で話していました。

## 小学生が料理に挑戦



筑紫駅前支店と原田支店は8月2日筑紫南コミュニティセンターとこども料理教室を共催し、児童16名が参加しました。

JA営農生活部職員が講師を務め、地域の児童に米の生産から流通までの過程を説明。児童は、JA職員の話真剣に聞いていました。

児童は、「ライスバーガー」「ワカメと細ねぎのみそ汁」に挑戦。子ども達は、女性部員などと楽しみながら調理を行いました。

参加した子ども達は「おいしく作ることが出来てとても嬉しいです。家でも作ってみたいです」と笑顔で話していました。

## 野菜の特性を生かして



JA筑紫は、8月5日と6日の2日間に、大野城、太宰府、筑紫野、春日・那珂川地区でゆめ畑秋冬野菜栽培講習会を開き、農産物直売所ゆめ畑の出荷者71名が参加しました。

JAの山本幸彦園芸指導員が講師を務め、気象状況や農作物の現状の他、今後の管理について説明。

山本園芸指導員は、「それぞれの野菜の特性に気を付けて栽培して欲しい」と話しました。

## 田んぼ探検で生物や稲をじっくり観察



JA筑紫は8月上旬、山口支店で店舗運営委員を中心に、ふれあい活動の一環として、山口コミュニティセンターと「夏休み子どもひろば」を共催し、児童と保護者など58名と「JAの田んぼ探検&おにぎりづくり」を楽しみました。

JA営農生活部職員は、米の栽培や田んぼの生き物などについて説明。その後、参加者は虫取り網を片手に、稲の状態や田んぼに生息する生き物を観察。

昼食では、JA女性部員と児童が一緒におにぎりを作り、児童は「とても美味しい！」と笑顔で味わいました。

また昼食後、児童にお米を大切にしてほしいという思いを込めてJA女性部がお米ありがとう音頭」を踊りました。踊りの中に、お米が出来るまでの4つの過程（田植え・田んぼの草取り・稲刈り・脱穀）を取り入れ、農作業の様子を分かりやすく表現。踊りを見た児童は「初めてこの踊りを見ました。ご飯を食べる時は感謝して食べたいです」と話していました。

## 一日農業新聞研修会を開催



JA筑紫は、日本農業新聞の普及推進を目的に、一日日本農業新聞研修会を開き、JA役職員が参加。日本農業新聞九州支所の山本史郎支所長が農協改革などの情勢報告をしました。

JA広報活動と日本農業新聞が果たす役割について、JA役職員が理解を深め普及目標達成に向けた意思統一を図ります。JAでは地域の農業やJAグループの取り組みを組合員に繋ぐツールとして、今後も普及活動に尽力していきます。

## 品質管理の徹底を目指す



JA筑紫は、JA物流センターで2019年度カントリーエレベーター運営委員会を開きました。

米麦情勢や生育状況の報告の他、19年産水稻処理計画など全6項目を協議。農事組合や生産部会の代表、JA役職員などが参加しました。

今年の水稻処理計画は、荷受生重量で「夢つくし」485t、「元気つくし」845t、「ヒノヒカリ」652tの合計1982tを計画しています。



## 第13回ちゃぐりんフェスタ 2019



JA筑紫は8月24日、組合員や地域とのつながりを深めようと、JA本店で第13回ちゃぐりんフェスタ2019を行い、終日大盛況でした。

夏休み恒例の子ども向けのイベントとして好評で、地域での認知度も年々高まり、13回目を迎えました。約1600名の親子連れが来場。

屋外や屋内会場の体験コーナーは、JA管内5地区の組合員や職員などが教えるアートバルーンや木工細工作りなどを行いました。子ども達は、組合員や職員らとふれあいながら手作り工作を楽しみました。屋内会場のステージでは、福岡農業高校デザイン科による「食育クイズ」や、子どもグループが元気なダンスを来場者に披露。来場した親子は「毎年楽しみにしているイベント。様々なコーナーがあり1日楽しむことが出来ました」と笑顔で話しました。

## 工事の無事を祈る



JA筑紫は8月29日、「山田支店起工式」を行いました。式には、JA理事や役職員、地元評議員、建設会社関係者など約35名が出席し、工事の無事を祈りました。

神事が行われたあと、白水清博組合長は「組合員、利用者により便利で親しみやすい店舗を運営していきたいです」と挨拶しました。

## ブロッコリー部会 育苗状況を確認



ブロッコリー部会は、8月30日、苗作りの均一化を図ろうと、部会員の圃場を巡回し、育苗状態を確認しました。部会員17名と福岡普及指導センター、JA農業振興課職員4名が参加し、互いの栽培方法など熱心に情報交換を行いました。

部会では、7月に播種を始め、8月から定植。出荷期間は秋冬作型で10～3月ごろまで続きます。

## 「博多和牛」を外食産業へ



博多和牛販売促進協議会JA部会は8月下旬、大阪のハグミュージアムで開かれた「Meet the Fukuoka」に参加しました。部会代表として参加した平嶋健太郎さんは、「博多和牛」を通じて福岡県産食材の魅力をPR。

このイベントは、福岡県庁が主催しており、福岡県の生産者や加工業者、関係機関など21組が連携。県産の食材の美味しさを知ってもらおうと、大阪の外食事業者31組にPR活動を行いました。

平嶋さんは事業者には「博多和牛」の内もも肉の焼肉をふるまい、特徴や魅力を説明。事業者からは「どのくらいの期間育てているのか」など多くの質問が上がりました。

平嶋さんは「『博多和牛』の魅力を多くの方々に伝えることができ良かったです。今後も販路を拡大するため、PRを続けていきたいです」と意気込んでいました。